



先日、ある高校の校長先生が来校されたときに、「少し前までの大学入試は、テスト学力（テストの得点）を重視していましたが、今は小論文や集団ディスカッション、プレゼンテーションなど、長期的な学習体験でしか身に付かない力が試されます。だから本校はその対策のため、カリキュラムを組み直したんです。」というお話しをされていました。

以前にもお伝えしたとおり、今は基礎的な知識や技能の定着を前提として、それらを適切に『活用する能力』が、「学力」とされています。しかも、自分の得手・不得手を理解し、課題に対して自分なりの方法で解決する、さらには、新たな考えを生み出し、自分なりの答えを導く、ということも重要ポイントになっています。

このようなチカラを高めていくためには、もちろん家庭学習での勉強も大切ですが、それ以上に日頃の学校での授業への取り組み方が大事です。

授業で、「自分なりの方法で課題を解決する」「仲間の意見や考えを自分の学びに生かす」「意見や考えを言葉や文で表現する」など「教室」でしか学べない力を身に付ける。

帰宅後は、「その日の学びを振り返る」「活用するための知識や技能を定着させる」など、「個人」で学べる学習に取り組む。

このような取組を地道に続けていくと、確実に学力は高まっていきます。

そして、2学期は長く、勉強に集中できる環境であり、特に中学生はこの時期にグンと伸びる子が多い傾向にあります。教科によっては、だんだんと教科書の内容も難しくなってきます。この時期、計画的・継続的に学習することによって、飛躍的に伸びるようになります。

日々の授業を重視

- ◆2学期の中間テストを廃止
- ◆2学期の期末テストは
5教科（国社数理英）のみ実施
- ◆3学期の学年末テストを廃止

※家庭には別紙にておしらせ済み

学期末・年度末の学習成績は
定期テストの結果に合わせて
日常の授業での学びの成果を
これまで以上に重要視します



また、これまで多くの中学生を見ていると、成績を良くするためには「テスト勉強を頑張ればよい」という意識が見え隠れしています。つまり、テスト前1～2週間の復習に力を入れればよい、中には「教科書の〇ページを覚える」「ワークの〇ページの問題が出る」など、「テスト問題ができればよい」という勉強の仕方に対応する子もいます。

そして、その「習慣」を身に付けさせてしまったのは、これまでの学校教育であることも否認しません。

日常の授業に真剣に取り組む 社会に生きるチカラを付ける

そのため、本校では、定期テストでの学習評価よりも、日々の授業での学習評価を重視し、定期テストの方法を若干変更することにしました。

つまり、日常の授業課題に真剣に取り組むことによって、教科の単元の目標を達成する。そして、知識や技能はもとより、社会に生きるチカラを身に付けることができるよう、この2学期は「毎日の授業」を大切にしていきたいと考えています。

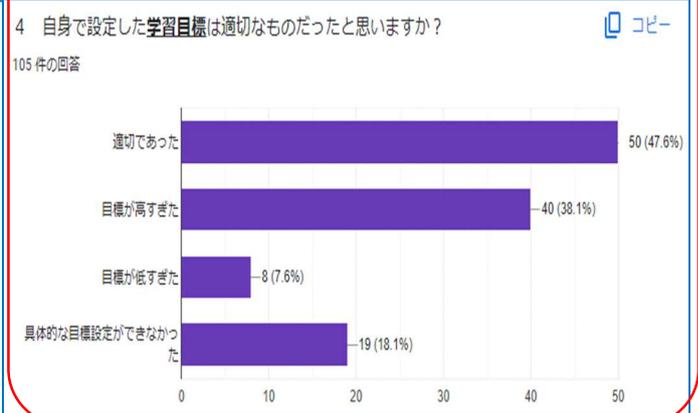
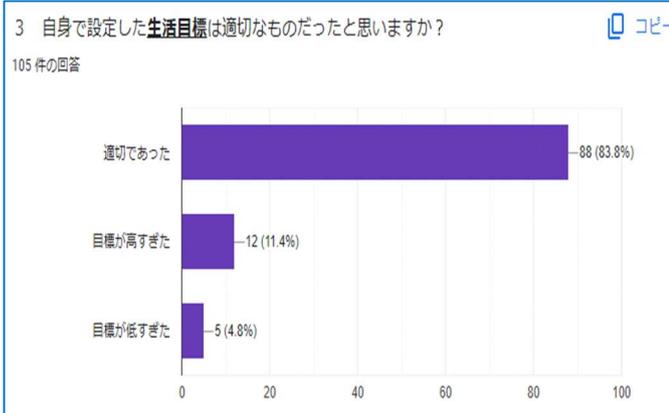
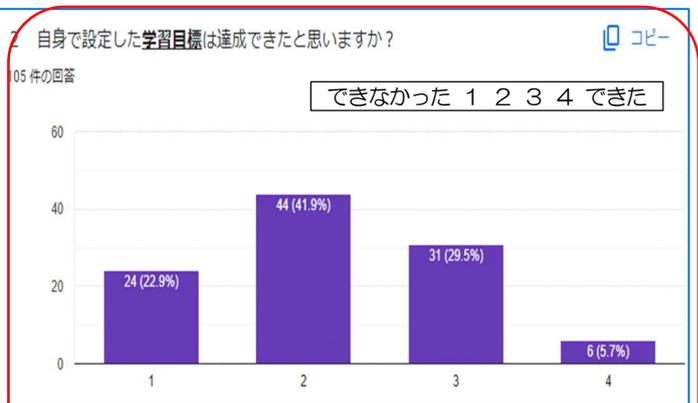
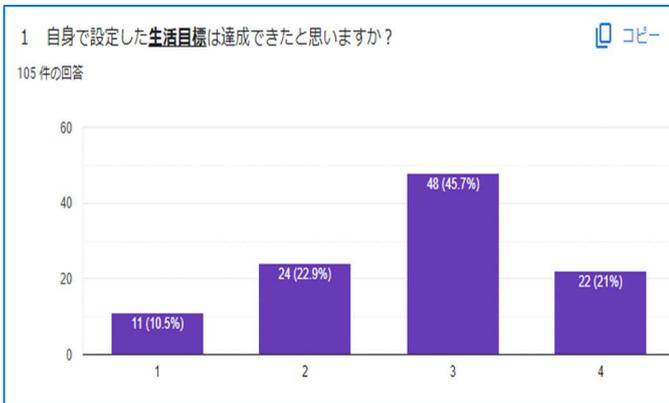
先生方も日々研鑽に励み 授業づくりを工夫します

もちろん、私たち教員の授業づくりも、その目標が達成できるような内容にしていきます。子どもたちの学びに向かう力を高め、自分で考えたり、判断したり、言葉や文字で表現したりする場面や、仲間と相談したり、力を合わせて答えを導いたりする場面などを意図的に設定していきます。

そして、それらの取り組み方や活動で身に付けた成果を適切に評価し、学期末や学年末の成績に反映させるようにしていきます。

「伸びない人は いない」(東進ハイスクール)

「やるか やらされるか」(Z会)



夏休みには宿題を出さなかったのですが、学習の取り組みはどうだったのでしょうか？

7月18日、各ご家庭に向けて「夏休みの宿題をやめます」という文書を配布しました（改めてHPに掲載しました）。「今年から、羽幌中学校では 長期休業（夏休み・冬休み）には 学校から各教科の宿題は出さずに 子どもたちの主体性に委ねます」という副題のごとく、全員に一律の宿題を課すことをやめました。これには、一人一人が自身の課題に応じた学習目標を設定し、計画に従って学習に取り組めるようになってほしいという願いがありました。

その結果が、上の右側のグラフです（左は生活目標の振り返り）。

※夏休み中のtetoru連絡からお子様にごこの調査に取り組むよう働きかけていただき、ありがとうございました。

「学習目標の設定は適切であったが、達成はできなかった子が多かった」というのが、大まかな見解でしょうか。一律宿題廃止の成果は「道半ば」ではありますが、日常から主体的に課題を克服するために、地道に学習する習慣のある子にとっては、取り組みやすかったのではないかと思います。

2学期は、毎日の授業に真剣に取り組み、家庭学習で主体的に補うという習慣が身に付くよう、学級や各教科で指導や支援に当たっていきます。

その成果が、冬休みの学習への取組につながっていくよう、期待しています。

学校目標のキーワード 2学期も「安心感・寛容力・主体性」

保護者の皆様には1学期末に学校評価へご協力いただき、ありがとうございました。結果は、2学期始業式の日配布した「後期学校づくりプラン」にてお知らせしたとおりです（HPにも掲載）。

春に提示した内容と大きく変わってはいませんが、引き続き、子どもたちが安心して学習に取り組める学級づくりを主としながら、一人一人の主体性を高めることも目標として取り組んでいきます。

いずれも、学校で最も長い授業時間（300分）での学びを効果的に行うため、勉強にしっかりと向き合うための環境を整えつつ、子どもたち一人一人が夢になって取り組める授業づくりに励みます。

夢に向かって学び続けるセンパイ 教育実習生が来ました！

9月2日から27日までの4週間、教育実習でお世話になります、石川 樹です。教科は理科を担当させていただきます。主に1年生の授業を担当しますが、理科の授業は全学年の教室で共に勉強させていただいています。この実習を通してたくさんの方の学び、多くの子供たちに理科の楽しさを伝えられるよう頑張ります。短い期間ですがよろしくお願いいたします。

北海道教育大学旭川校
教員養成課程 理科教育専攻
〈3年生〉
石川 樹（いしかわ いつき）

羽中卒業 2019年3月
実習期間 9/2～9/27
担当学級 1年A組

